

藍野大学短期大学部 入試対策講座 面接対策 基礎編

1) 面接とは何か？

面接は学力試験では分からないもの（熱意や適性）を見極めるために行なわれる。

また、いわゆる試験が学力を知り、点差を設けて可否決定するのに対し、面接は合格すべき者を選定するためのものである。

すなわち、面接官は受験生の味方である。

- ・ パネル面接 （複数の面接官 ⇄ 受験生一人）
- ・ グループ面接 （複数の面接官 ⇄ 受験生複数）

2) 何を見られているのか？

- ・ 身だしなみ = TPO を弁えているか
- ・ 質疑応答の的確性 = 読解力と表現力を備えているか
 ※「自分の言葉で語る」とはどういうことなのか？
- ・ 協調性と積極性 = 集団の中で調和し、自分を失わずに行動できるか

★小論文・志望理由書等の内容にウソはないか？

★大学としては、できれば本当に入学したい人に入ってほしい。

しかし、いわゆる学力試験ではそのあたりのことを推し量ることは不可能。

小論文と面接による入試は、大学が入学してほしいと感じる受験生を探す試験でもある。

ノックの回数、お辞儀の角度、言い間違い、言い淀み、などは大した問題ではない。
重要なのは、話す内容そのものである。

3) 面接の準備とは

★答えを用意すべきなのか？

発言内容を用意したところで、その質問が来るとは限らない。以下に示す基本的な質問に対する答えは用意すべきだが、大切なことはきちんと答えられるように自分のものにしてしまっていることである。

＜本音でそう思うことが大切 ⇒ 心の底からそう自覚すること＞

※もちろん、自己紹介や志望動機などは予め準備することは可能である。
ただし、これも正確に暗記して語ることが目的ではない。

★何を質問されるのか？

- A 自己紹介、志望動機、自己 PR
- B 志望学部学科に関係する諸問題
- C 志望理由書、小論文に書かれている事柄、時事問題等

A は自分に関する事柄

B は当然普段から興味を持っている事柄のはず

C は A、B の要素を両方備えた内容のはず

つまり、いずれも準備可能でなければならないし、準備できるはず。
逆に言えば、小論文・志望理由書は準備作業、面接はその補足と言える。
その意味で、小論文や志望理由書は面接の際に聞いてほしいことを整理する場でもある。

それゆえ、ネット等で見つけた書面の一部を借りてきて、それをそのまま転用するのは、自分の首を絞める行為でしかない。高校の先生に添削修正してもらったり、必要上、大学のパンフレットを引用したりした場合は、かならずその意味を完全に理解し、自分のものとしておく必要がある。

自分の言葉で説明するとは、下手な英会話のように自分で構文を考えて話すことではない。その概念やそれについて考えを自分のものとしてしまったうえで、きちんと説明することができるような状態にある、ということである。

4) 志望理由書

志望理由書は、小論文と同じ目的（書く人が自分の意見、主張を相手に納得させる）を持つものであるため、構造も小論文と同じ構造を採る。

すなわち、序論、本論、結論の三分構成であり、具体的には以下のようなになる。

序論：自分の主張（＝とりあえずの結論）

入学したいということ、自分自身の理由（背景）の説明

本論：主張の説明・展開、主張の補強

その学校でなくてはならない理由（自分にとってのオンリーワン）

結論：本論を踏まえて導き出せる真の結論（≠序論と同じ）

入学後の抱負、卒業後の抱負など

5) まとめ

面接においては「論理的な説明力」「まともな表現力」「聞かれたことに答える的確性」「準備度合いや回答姿勢、内容からうかがえる熱意」と言い換えられる。

（この観点に立つと、面接と小論文は同種の試験である）

面接中にくしゃみをしようが、お辞儀の順序を間違えようが、そんなことはどうでもよい。

大切なのは回答の内容（中身）である。

それと一緒に審査されるのが、

論理的に説明できるか否か

表現力はまともに備わっているか否か

質問に的確に回答できるか否か

それらをきちんと準備する背景にある熱意のほど

である。

これらは「適性」という観点からも審査されている。

以上